

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1455
施設名	クローバーこども園
施設所在地	墨田区八広1-16-22
法人名	社会福祉法人 愛理会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

園児が自分の各部分の身体を意識し、遊びを通して楽しみながら体幹を鍛える。

<テーマの設定理由>

危機管理上や夏の外遊びの中止により思い切り体を動かし体幹を鍛える機会が失われてきています。幼児期は運動機能の基礎が作られる時期です。体幹づくりは怪我の予防や集中力の向上に影響します。乳幼児向けの専用マット、鉄棒、巧技台、縄等の遊具を活用し、体の使い方を遊びを通して習得するためすくわく活動に取り入れました。

2. 活動スケジュール

乳児 はいはいくぐり、マット上り下り、バランス立ち、梯子わたり、ボール遊び、玉入れ、発育ダンス

幼児 4月 コーディネーション運動、動物歩行サーキット、横転、坂道前転、前跳び、パラバルーン

5月 コーディネーション運動、前転、助走前転、前跳び、開脚跳び、走り跳び

6月 コーディネーション運動、前転、助走前転、前跳び、開脚跳び、走り跳び

7月 コーディネーション運動、ぶら下り、腕支持、前回り、足抜き回り

8月 コーディネーション運動、前転、助走前転、前回り、助走前転、台上前転逆上がり、開脚跳び

9月 コーディネーション運動、前転、前回り、台上前転、逆上がり、開脚跳び

10月 コーディネーション運動、前転、前回り、台上前転、逆上がり、開脚跳び、発育ダンス

11月 コーディネーション運動、玉入れ遊び

12月 コーディネーション運動、ナンバープレート遊び、発育ダンス

1月 コーディネーション運動、なわ遊び、前跳び

2月 コーディネーション運動、かけっこ、ラダー遊び

3月 コーディネーション運動

3. 活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

乳児 プレイクッション、ボール、巧技台、梯子、鉄棒、紅白玉

幼児 マット、なわ、パラバルーン、跳び箱、鉄棒、プールスティック、紅白玉、ナンバープレート、ラダー

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

乳児

- ・保育士が、プレイクッション、ボール、巧技台、梯子、鉄棒、紅白玉などを成長に合わせ保育室や遊戯室に設定し安全に遊びを通して運動を誘導する。
- ・発育ダンス講師のヤバシさんの指導により保育士とともに園児が遊戯室にて運動遊びを提供する。

幼児

- ・体育指導の坪田講師とともに保育士が月のプランを立てる。
- ・運動用具を使用し運動遊びを園庭、遊戯室にて行う。
- ・発育ダンス講師のヤバシさんの指導により保育士とともに園児が遊戯室にて運動遊びを提供する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

0歳児 プレイマットの段をバランスを取りながら上っていきました。跳び箱の上にマットをのせた山の上に両手でしっかりとつかまってよじ登り降りています。

1歳児 梯子では横歩きで渡ったり、両足を広げて落ちないようにわたっています。
鉄棒を握りぶら下がっています。

2歳児 梯子でわにさんのようにわたります。ボール遊びでは園庭で「めちゃぶつけ」遊びができるようになりました

1.2歳児発育ダンス・ウォーミングアップ

- ・動物になりきって動く…クマ・フラミンゴ・恐竜など
- ・リズム遊び（ハロウィンの歌、ピーカーブー、ジャングルぐるぐる）
- ・片足バランスなども保育士が思っていた以上に立っていることのできる子が多かったように感じた。
- ・音楽に合わせて体を動かすことに興味を示していた。講師や保育士を見て動きを真似ようとしていた。

幼児の発育ダンス

- ・くま歩き・かえるなどの動きで往復する
- ・曲に合わせてダンス数曲
- ・みんなで輪になってカウントに合わせてしゃがむ・立つなど同じ動きを楽しんでいます。

3歳児運動遊び

- ・マット運動では横にコロコロと回転したり、巧技台をのせてその上からジャンプした。巧技台の高さが低かったようで「かんたんだよ」「みてて」と自信満々であった。
- ・1本橋やジャンプ台からのジャンプをした。鉄棒ぶら下がりには自ら行き、鉄棒の上へ上るときには坪田先生の力を借りていた。

4歳児運動遊び

- ・棒のダンゴムシのポーズや巧技台を使っての跳び箱導入などがあったが、意欲的に参加していた。
- ・坪田講師と一緒にプールに入るといふことで嬉しそうにしている。水面に顔を付けたり、プールのスティックにつかまって全身を伸ばした状態で浮いて進む感覚など初めて行うことが多くあったが、興味津々で楽しんでいた

5歳児

- ・紅白玉を投げる動きの練習の前に段階を踏んで色々な動きを取り入れて楽しんでいた。
- ・講師の動きを見ながら興味津々に参加していた。
- ・鉄棒・マット・跳び箱、ラダーを使用した遊びも繰り返し楽しみながら取り組んでいた。
- ・段数の高さを上げて繰り返し挑戦していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- 0歳児 歩行が完成した子供でも今一度遊びを通してはいはいを促し四肢の体幹づくりをすることが大切だと再認識をする。
プレイクッションの購入によりその子の成長に合わせて楽しめる設定ができました。
夢中になって遊ぶ、毎日の繰り返しの遊びで体を動かすことの重要性を感じている。
- 1歳児 思い切り手足を伸ばした姿勢を回数を多く保育に取り入れていきたいと思います
- 2歳児 片足バランスなども保育士が思っていた以上に立っていることのできる子が多かったように感じた。
片足でバランスを取るという動きができ始める年齢、楽しさも感じられる
スキップは真似てできる子がほとんどだが、難しい子は2ステップから始めると良いと思った。
- 3歳児 鉄棒やマットなどでの保育を多く取り入れていきたいと思いました。
- 4歳児 ジャンプして飛び降りる際の姿勢が分かりやすく経験できるだけでなく、数字への理解、判断力など様々な経験ができるように思う。
これまであまり活動に入れる機会が少なかったため、日常にどの様に取り入れていくか検討したいと思う。
- 5歳児 曲に合わせて踊るだけでなく、準備体操から徐々に色々な動きを取り入れ、段階を踏んでダイナミックになっていた。
くま歩きなど日々コンスタントに行い、あそびの中で腕の力をつけていく。
身体の使い方や動きのコツをその都度事前に繰り返し伝える。
基本的な動き・基礎がしっかり定着してから段数を上げる。
障害のあるお子さんも自分の動きに達成感を味わうような設定を講師に指導していただき次の遊びに取り入れることができた。